

[ビジュアル図解] 洗淨と殺菌のはなし

編著：新名史典／著者：隈下祐一・加藤信一(サラヤ㈱)

発行：同文館出版㈱／〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-41／

☎03-3294-1802(編集)／A5判／231頁／1800円(税別)／2013年7月2日発行

編著者は、長年洗淨剤・消毒剤メーカーで商品開発等の業務に携わり、現在は独立し、専門のコンサルタント会社を立ち上げ活躍している人物である。また、著者らは現在洗淨剤・消毒剤メーカーで研究開発に携わる研究スタッフである。日常における殺菌消毒を意識し、衛生的な手洗いの指導・教育ならびに啓発活動を実施している人物である。

本書は、「洗淨と殺菌について、正しく理解しよう！」を主題にまとめられた書籍である。本書の中で、「0157、ノロウイルスによる食中毒、SARS ウイルスによる新型肺炎、新型インフルエンザの感染、院内感染による罹患が社会問題である。洗淨・殺菌は、われわれの日常生活に身近なものであるだけに、正しく行なわないと、食中毒事件や感染につながってしまうが、これらの問題の多くは、洗淨と殺菌が正しく理解できていれば防げると記載されている。まさしく理にかなった見解である。

また、本書は、微生物（細菌・ウイルス）についての基本的な知識から、それらの微生物感染のプロセス、適正で確実な予防の方法をビジュアルに解説している。医療分野、食品分野ならびに介護分野に関わる人から一般の人にまで、「洗淨・殺菌」についての正しい知識をわかりやすく伝える1冊であると記載されている。

洗淨・殺菌は、われわれの日常生活にも反映される衛生管理手段であるが、正しく行なわないと、食中毒事件や感染につながるものである。

次に、本書の内容について順を追って紹介する。

第1章は、「洗淨や殺菌とはそもそもどういうこと？」と題し、「日本人は世界一きれい好き」、「衛生管理は自己責任で行なうリスク管理」、「身の回りにこんなにある洗淨剤・殺菌剤」等の項目を取り上げ、コンパクトに解説されている。

第2章は、「洗淨・殺菌の効果と必要性」と題し、「目指すは清潔な状態」、「見た目がきれいなら清潔か?」、「殺菌・消毒・滅菌の違いは?」、「除菌・抗菌および制菌の意味は?」等について述べられている。

第3章は、「汚れが落ちるしくみ・菌が死ぬしくみ」と題し、「界面活性剤の性質・種類・作用、汚れを落とす仕組み」等について詳細に述べられている。

第4章は、「菌とウイルスはどう違うのか?」と題し「、微生物についての解説」、「微

生物（菌）の増殖の仕組み」、「菌とウイルスを防ぐ方法」等について記述されている。

第5章は、「食中毒・感染症とは何か?」と題し、「食中毒・感染症についての説明」、「なぜ食中毒になるのか?」、「食中毒・感染症の原因」等が詳細に述べられている。

第6章は、「菌やウイルスが広がるプロセス」と題し、菌およびウイルスの伝播ならびに感染経路、「マスクや手袋で食中毒・感染症は防げるか?」、「器具の使い回しが菌の感染を広げる」等が解説されている。

第7章は、「洗剤とはどんなもの?」と題し、「中性洗剤、アルカリ性洗剤および酸性洗剤の特徴」、「酵素の持つ洗剤パワー」、「洗剤と同時に殺菌ができる洗剤」等について記述されている。

第8章は、「殺菌剤とはどんなもの?」と題し、「殺菌剤の格付け」、「石鹼と逆性石鹼の違い」、「自然の中にもある殺菌剤、殺菌剤で耐性菌がうまれるか?」等が記載されている。

第9章は、「人を守る手洗い・うがい」と題し、「たかが手洗い、されど手洗い」、「手洗い全般についての利点ならびに注意点」、「うがいの経緯と期待できる効果」等について解説されている。

第10章は、「効果的な洗剤・殺菌オペレーション」と題し、「洗って・拭いて・消毒」、「洗剤・殺菌剤の使用上の注意」や「食中毒予防に役立つ大量調理マニュアル」等にも触れられている。

また、各章の最後には、それぞれの章に関連する適切なコラム欄が設けられ、アクセントを付けているのも特徴の一つである。先日、地元の図書館に行った際、既に本書が棚に置かれていることを発見した。

本書の中でも述べられているが、たかが手洗い、されど手洗いである。本書を熟読することにより、感染症の発生と食中毒の発生を少なからず抑えることが期待される。また、グローバルな視点での感染症の低下対策にも貢献できるものと考えられる。

本書は、防菌防黴学会の会員ならびに会員等が所属する医薬品、食品及び関連企業等で有効に活用出来るものと思われます。また、一般家庭においても衛生管理面でも十二分に活用できる書籍として、お勧めする次第である（近畿大学農学部 坂上 吉一）。